

歌って心も体も健やかに



教育委員 宮田 昇子

町教育委員会では、本町の文化振興・進展に貢献している個人や団体を「文化奨励賞」として表彰しています。今年度は、摩周歌謡クラブ代表の橋本聖さんが受賞されました。

2014年の同クラブ結成以来、地域に根差した活動に尽力されてきたのはもちろん、釧根地区カラオケ連盟にも所属。歌を通じて会員や参加者の交流を深め、心の潤いをもたらすなど、有意義な活動で本町の芸術文化を支えてきました。

歌を歌うことは心身の健康にいいとされています。大手カラオケ関連企業と大学の共同研究で「ストレス解消」「腹式呼吸による有酸素運動」「免疫力向上」「嚥下(えんげ)機能向上」などの効果が実証されたそう。激しい運動のように体に負担をかけることなく、気軽に始められるのも利点だと思います。

私も歌うことが好きで、例えば掃除機をかけるとき、スイッチを入れると同時に毎日同じ歌を歌っています。無意識に。あとは車の運転中も歌いがちです。

気持ちよく歌い上げたいのですが、年々、高音が出なくなり…。調べてみると、年齢によって声帯の弾力が失われたり、声帯を動かす筋力が衰えたりすることに起因する模様。正しい発声や日常的に歌うことで改善の余地はあるようです。個人的に歌うことは楽しいので、いつか高音が戻ってくることを信じて、今後も毎日歌ってみます。

改めまして、受賞おめでとうございます。同クラブの皆さんの今後ますますのご活躍を期待するとともに、町内で文化・スポーツ活動に励む方々を応援していきたいと思っています。

教育委員コラム

Column of the member of the board of education

No. 43

2025/12

発行／弟子屈町教育委員会
教育長 岩原 勝行
教育長職務代理者 金井 秀明
委員 菅原 誓之
委員 吉田 一徳
委員 宮田 昇子

母校で講演…相撲錦絵師木下氏

教育長 岩原 勝行

本町出身で、日本相撲協会公認錦絵師・木下大門氏の講演が、11月4日に母校弟子屈高校で行われました。

大鵬の孫の王鵬と夢道鵬の化粧まわしのデザインも手掛けた木下氏は、前日に行われた弟子屈町功労表彰式（特別表彰受賞）出席のため来町されていたものです。

当日は、全校生徒のほか、弟高1期生の同級生や多くの関係者を前に「60年後の君」と題して、40年に及ぶ相撲絵師としてのエピソードを交え講演。心揺さぶられるものを見つけ、将来につなげてほしいと、後輩たちにエールを送っていました。



文化祭、学芸会を見学して

教育長職務代理者 金井 秀明



10、11月は各小中学校で学習発表会や文化祭が行われました。学年ごとの合唱や器楽合奏、小規模校では先生も重要な配役を担った演劇など、各学校とも見応えのある、また元気をもらえる発表でした。

幕間には、児童生徒が一生懸命作った作品の展示や、新しいスポーツの紹介など、工夫された学習発表会を見ることができました。デジタルデバイスも大いに活用されていました。中学生は劇中に映像をうまく取り入れ、弟子屈町の名所紹介やマーケティングビデオを流すなど、よく作られています。小学生もクイズの答えに映像を利用するなど、上手に使いこなせていました。少し前までは模造紙に書いていたのに、デジタル時代の進歩の速さを痛感しました。

戦後80年を考える研修会

教育委員 菅原 誓之



先日、釧路市寺院において、被爆者協議会「被爆体験を語り継ぐ会」講師で「被爆二世の会・長崎」の初代会長でもある佐藤直子さんをお迎えして、ご講演をいただきました。

佐藤さんのお父さんは12歳の時に被爆し、原爆投下から10日間で5人の兄弟を亡くしたそうです。その後、両親も原爆症で死亡。一番下の3歳の弟を12歳の少年が一人で火葬したそうです。ただ一人残されてからは、30年にわたり被爆体験の語り部を続けましたが、お父さんが亡くなってからは、佐藤さんが語り継いでいると説明を受けました。

佐藤さんは全国の学校でも、子どもたちに戦争の悲惨な姿を分かりやすく紙芝居を通して伝えています。「おこしてはならない、おこさせてはならない」戦後80年に考えさせられた貴重な研修会でした。

円山応挙展

教育委員 吉田 一徳

東京の三井記念美術館で現在開催中の円山応挙（まるやま おうきよ）展に行き、数々の作品を見てきました。特に印象に残った一つが眼鏡絵というもので、顕微鏡のような形のものを通して絵を見ることにより、遠近感や立体感を感じることができました。製作年代は18世紀・江戸時代とあり、現代の3Dに劣らない作りに驚かされました。

また、一番見たかったのが、応挙の梅鯉図屏風と伊藤若冲（じゃくちゅう）の竹鶏図屏風のコラボ作品。昨年発見されて以来大きな話題となった作品で、どちらも好きな画家ということもあり、ニュースで見ながら、いつか見てみたかったものでした。

以前も書きましたが、北海道ではこれらの作品を一同に見る機会は少なく、特に道東では皆無に等しいのが残念ですが、チャンスがあれば、ぜひ見てほしいと思います。



日本最大規模の大学祭

教育委員 宮田 昇子

早稲田祭に行ってきました。例年、2日間で約20万人が訪れる、国内最大規模とも呼ばれる学園祭で、一度行って見たかったのです。

趣向を凝らした展示企画や様々なステージ発表など、内容はもちろん面白いのですが、最寄駅から大学までの案内、周辺道路の交通規制など、運営に携わる学生の手際も見事でした。

大学近くの飲食店では早稲田祭とコラボしたメニューなどもあり長蛇の列。学内だけではなく、地域全体で盛り上がっている様子も見て取れ、域学連携を目の当たりにした感じがしました。



左のコラムで触れた早稲田祭。たくさんの方の興味深いサークルが活動を紹介していましたが、個人的に面白かったのが全国のイオンを研究しているサークル。主要テナントの有無などから点数を付け、偏差値を算出していました。最寄りのイオンは釧路だと伝えると、まだ行ったことがないので、ぜひ行ってみたいと話す学生。興味を突き詰めると探究につながりますね。ちなみに、北海道の最高値は札幌発寒のイオンでした。（宮田）

編集後記